

高学年ブロック授業説明資料

研究主題

自分の考えを伝え合い、学びを深める子どもの育成

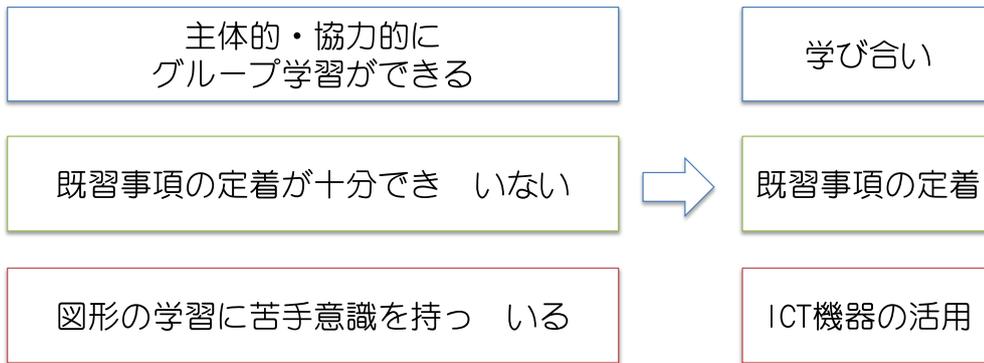
～算数科における「学び合い」の工夫を通して～

研究仮説

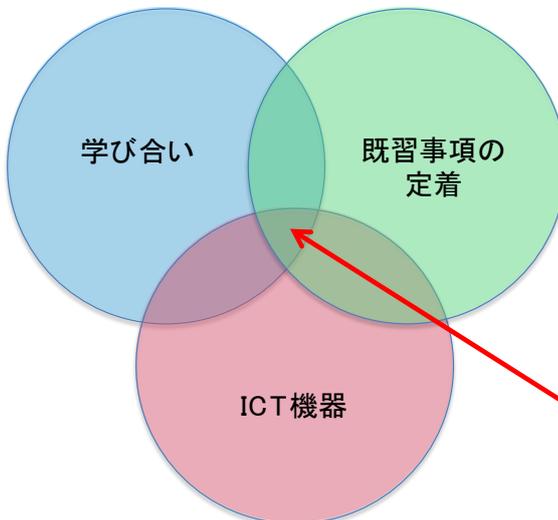
算数科において、教師が明確な意図をもって「学び合い」を仕組みば、子どもたちは、自分の考えを広めたり深めたりよりよく変容させたりして、学びを深めることができるだろう。

児童の実態

学習全般において、意欲的に取り組み、落ち着いた態度C 授業に臨ん
C いる子が多い。学び合いについてI , 主体的かつ協力的にペア学習やグ
グループ学習などを行い、分からない子に対して優しく教えてあげようとい
う姿勢も感じ取れる。算数の学習においてI , 苦手意識を持っている児童
が多い。特に図形に対して難しいと感じている児童が少なくない。



指導の工夫



児童の実態から考えられ
る課題と解決の手立てを

- ① 学び合い
- ② 既習事項の定着
- ③ ICT機器の活用

の3つに分けて考えてみた。

左の図のように、それぞ
れの要素C 指導の工夫をす
ることC , 児童I 自分の考
えを広めたり深めたりより
よく変容させたりして、学
びを深めることがC できるだ
T う。

自分の考えを広めたり深め
たりよりよく変容させたり
して、学びを深めることが
C できる子どもの姿

学び合い

ペアや小グループを作り、自分の考えを伝え合う中で情報の共有化を図っていく。一人一人に発言の機会を保障し、表現力を培い、自分の考えだけに偏ることなく多面的に思考できる力を伸ばしていきたい。

全体での話し合いの場においては、いくつかの児童の考えを提示し、共通点や相違点に気付かせることで、多様な考え方を理解し、多面的な見方をする中で自らの考えが広がり、深く学ぶことができるようになることを考えた。

学び合いの中でのT 師の役割や子どもの考えのみとりなど様々な場面を想定しておく。(子どもから考えが出なかった場合は、T 師が式を提示し、考え方を話し合わせることで、子どもたちの学びが深まると考えた。)

既習事項の定着

日常的に既習事項に触れる機会を増やすために、電子黒板や掲示物を効果的に活用する。また、授業のはじめに、前時の復習問題を行う。

ICT機器の活用

個人で課題解決をする際に、タブレット型端末を用い、図形を視覚的にとらえることができるようにする。また、学び合いの場面では、タブレット型端末の視覚的効果を活用することで、自分の考えを順を追ってまとめながら表現したり、相手を意識し、分かりやすく説明したりする活動へと高めっていく。

本時の授業の構想

既習事項を基に、台形の面積の求め方を考えることができる。
既習事項を基に、台形の面積の求め方を説明することができる。

本時の手だて



学びあい（4人班でのグループ・全体）

- ・一人一人に発言の機会を保障する。
- ・自分の考えを順を追ってまとめながら表現させる。
- ・相手を意識して分かりやすく説明させる。
- ・共通点や相違点に気付かせ多様な考え方を理解させる。
- ・教師が提示する式の考え方をグループで話し合わせる。

既習事項の定着（復習問題・掲示など）

- ・台形の面積の求め方を考える際に、既習事項に帰着させながら考えさせる。

ICT機器（タブレット型端末）の活用

- ・図形を視覚的かつ多面的にとらえることができるようにさせる。
- ・発表ツールとして活用させる。